



令和5年度

子供主体の保育普及促進事業  
活動報告書

## 目次

I 事業概要	p.02
II アドバイザー派遣事業	p.03
III 参加園における取組	
① 不動さつき保育園	p.04
② 日ノ出町保育園	p.10
③ キッズラボ西馬込駅前保育園	p.16
④ ナーサリー中野の森	p.22
⑤ 木曽保育園	p.28
⑥ 小金井公園ハイジ保育園	p.34
IV アンケートまとめ	p.40
V アドバイザー考察	p.42
VI アドバイザー総括	p.46

# I 事業概要

## 事業目的

東京都では、自然を活用した保育の中で、子供の主体性や想像力、思考力など「生きる力」を育むことを目指し、令和元年度～2年度に「自然を活用した東京都版保育モデル事業（以下「モデル事業」という。）に取り組むとともに、令和4年度にはモデル事業の成果を活かし、「子供主体の保育普及促進事業」として、都内保育所等へのアドバイザー派遣、保育所等職員向けのセミナー・交流会、都民向けの報告会やシンポジウムを開催した。

令和5年度は、これまでの取組を踏まえ、都内保育所等へのアドバイザー派遣を引き続き実施し、子供主体の保育への理解促進と保育の現場における実践により、保育の質の向上につなげることを目的に事業を実施した。

## 事業内容

### ■ アドバイザー派遣事業

子供主体の保育の実践に支援を希望する保育所等に、モデル事業の考え方や子供主体の保育に関する専門知識、ノウハウ及び経験を有するアドバイザー（以下「アドバイザー」という。）を派遣する。



### ■ 実施内容

#### 導入研修（目線合わせ）

活動同行を実施するクラスの保育者等を対象に、アドバイザーによる研修を実施。事業の目的や進め方を説明し、自然を活用する子供主体の保育の考え方や子供との関わり方のヒントを伝えた。



#### 事前視察（現状把握）

活動同行に先立ち、参加園の保育の現状を把握するため、アドバイザーが園を訪問し保育の様子を視察した。また、園の課題や事業に期待することについて、園長や保育者から聞き取りを行い、園の状況にあわせて担当するアドバイザーを決定した。



#### 活動同行（3回）

近隣の公園での活動や散歩にアドバイザーが同行し、活動終了後には、アドバイザーと保育者で振り返りを実施した。同行中の子供たちの様子や保育者の子供との関わりについて、気づいたことや良かった点を共有し、今後の保育を良くするためのヒントなどについて考えた。各園計3回実施した。



### 派遣 アドバイザー

一般社団法人  
new education  
Little Tree



野村 直子 さん(代表)



久保田 修平 さん



元木 もも子 さん



藤江 雅也 さん

# II アドバイザー派遣事業

## 概要

### ■ 期間

令和5年7月～令和6年1月

### ■ 参加園

区市町村名	参加園名	施設種別	実施クラス	掲載ページ
目黒区	社会福祉法人さつき会 不動さつき保育園	小規模保育事業	1～2歳児クラス	P.04～
足立区	社会福祉法人朝陽会 日ノ出町保育園	認可保育所	2歳児クラス	P.10～
大田区	キッズラボ株式会社 キッズラボ西馬込駅前保育園	認可保育所	5歳児クラス	P.16～
中野区	社会福祉法人翼友会 ナーサリー中野の森	認可保育所	3～5歳児クラス	P.22～
町田市	社会福祉法人蘭会 木曾保育園	認可保育所	3～4歳児クラス	P.28～
小金井市	株式会社キッズキングダム 小金井公園ハイジ保育園	認可保育所	3～5歳児クラス	P.34～

### ■ 導入研修について

事業の目的や進め方を説明し、自然を活用する子供主体の保育の考え方や子供との関わり方のヒントを伝えた。参加した保育者等が、自らの保育を振り返りながら、現在の取組みや悩み等を共有し、子供主体の保育とは何かを考える時間になった。それぞれの園の特徴や周辺環境を踏まえ、この事業を通して何を目指したいか、目線合わせを行った。



#### 「子ども主体の保育普及促進事業」導入研修資料 文責：野村直子

- この事業が目指すこと  
自然環境を活用して、子供主体の保育を促進すること。各国ならではの取り組みの工夫を一緒に検討していき、自然環境だけでなく、室内保育等でも応用できるようにしていく。
- 自然の中で体験的な学びを促す  
自然の中で子どもの姿を捉える視点として、「感性的な体験」と「力試しの体験」
  - ①感性的な体験：静の活動（内面的な体験）  
自然との出会いの中で生まれる「なんだろう？不思議だな」という心の動き。五感が刺激され生まれる、「感じる」体験
  - ②力試しの体験：動の活動（動きとして現れる体験）  
子ども自身が自分で選ぶ、冒険的なチャレンジや力試しをするような活動  
危機感（ドキドキ・ヒヤヒヤ）の体験から自分の力を知る  
達成感を味わったり、成功体験・失敗体験から次への成長が促される
- 自然の中での関わり方のポイント  
ベースは安心・安全の場。心と身体の安全があるから、子どもの自発的な活動が保障される  
その上で、保育者の3つの関わり方のヒント
  - ①黒子であり応援者  
子どもの思いを応援し黒子のように環境を整える
  - ②自然と子どもの橋渡し  
一緒に自然を発見し、面白さや不思議さを共有
  - ③ファシリテーター  
「気づき」から変化や成長を促す役割
- 安全に対する認識  
「学びにつながるリスク」と「絶対に体験させてはいけない危険」  
守るだけではなく、子ども自身が危険を認識し、安全を判断する力を育みたい。  
→小さな怪我やトラブルは、子どもたちの成長の糧となる
- 自然を活用した保育のヒント  
\*場所によっては違いがあるため、活用しやすい場所を調査しておく  
例：冬、南向きで風が通りにくい暖かい場所 → 休憩をする場所に最適  
夏、木が茂っていて、日陰が多い場所 → 雨の日も最適  
秋、落ち葉がたくさん落ちる場所 → 落ち葉プール作りなど乳児にも適している  
見通しが良く、広い原っぱのような場所 → 新年度など子どもが慣れていない時に最適  
\*季節によって変化する自然環境を記録しておく  
例：春に咲く花（桜の木）の場所をお散歩マップに書き込む  
年間や月間計画書の中に、季節の自然物を記載し書き溜めておくこと計画の目安になる  
\*2通りのお散歩の仕方  
山登りにも山頂を目指すものと、ハイキングのように平行移動を楽しむものがある  
お散歩も「道草を楽しむ方法」と、「目的地を楽しむ方法」の2通りある